



四日市市立大矢知興譲小学校
校長だより 13号 R8.8.31

児童質問紙の結果に見られる子どもたちの「よさ」

児童質問紙からも、本校の子どもたちの姿が見えてきました。

「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童や、「人と違う意見を言っても否定されない」と感じている児童の割合は、全国と比べても良好な結果でした。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」と考える児童も多くいます。

本校が大切にしてきた「なかまづくり」や、安心して自分の考えを伝え合える学級づくりの成果が、子どもたちの意識にも表れているのだと思います。

その一方で、「自分にはよいところがある」と感じている児童や、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合には課題が見られました。また、国語や算数について「好き」「得意」と感じている児童を増やしていくことも課題です。

ここには、私たちがこれから大切にすべきことが表れているように思います。

「人から認めてもらえる」ことを、「自分で自分のよさを認められる」ことへ。

「安心して学べる」ことを、「学ぶことが楽しい、もっとやってみたい」へ。

子どもたちの中には、そのための土台が育ってきています。

結果をこれからの教育へ

今回の結果を受け、基礎・基本の定着を引き続き大切にするとともに、覚えたり問題を解いたりするだけではなく、学んだことを使って考え、友だちと伝え合い、自分の言葉で表現する授業をさらに充実させていきます。

I C Tについても、「使うこと」を目的とするのではなく、子どもたちが考えを深めるために、いつ、どのように使うことが効果的なのかを考えながら活用していきます。また、家庭学習についても、学校での学びと家庭での学びがつながるよう取組を進めます。

全国学力・学習状況調査は、子どもの力の一部分を捉えたものです。数字だけでは表すことのできない力や成長も、子どもたちにはたくさんあります。

だからこそ私たちは、結果を単なる「点数」として見るのではなく、子どもたちの今の姿を知り、よりよい学びをつくるための手がかりとして大切にしたいと考えています。

一人ひとりの子どもが、「学ぶことが楽しい」「自分にもできる」「自分にはよいところがある」と実感できる学校をめざして、2学期以降の教育活動につなげていきます。

明日から2学期が始まります。

今回の児童質問紙からは、「先生が自分のよいところを認めてくれている」「人と違う意見を言っても否定されない」と感じている子どもが多い一方で、「自分にはよいところがある」と感じている子どもや、「将来の夢や目標を持っている」子どもを、もっと増やしていきたいという課題も見えてきました。

子どもが自分のよさに気付くのは、誰かからほめられたときだけではなく。難しいことに挑戦してできるようになったとき、友だちと力を合わせて何かをやり遂げたとき、誰かの役に立てたと感じたとき、失敗してもあきらめずにもう一度取り組んだとき。そうした一つひとつの体験が、「自分にもできる」「自分にもよいところがある」という実感につながっていくのだと思います。

2学期には、毎日の授業はもちろん、さまざまな行事や活動があります。友だちと考えを伝え合うこと、力を合わせることで、自分の役割を果たすこと、これまでできなかったことに挑戦すること。学校生活には、子どもたちが自分の新しい一面に出会う機会がたくさんあります。

私たち教職員も、一人ひとりの小さな挑戦や変化を見逃さず、その子自身が「自分は成長した」と実感できるよう支えていきたいと思っています。

2学期のさまざまな体験を通して、子どもたちの中にたくさんの「できた」「役に立てた」「やってみたい」が生まれることを願っています。そして、それらがやがて、自分のよさを認め、自分なりの夢や目標を描いていく力につながっていくことを期待しています。

明日、少し成長した子どもたちと再会できることを楽しみにしています。

学校ホームページ「学校の様子」をよろしくお願いします！

学校ホームページ「学校の様子」から、いろいろな情報を発信しています。AIを使い、やさしい日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語版も添えています。「学校の様子」または「新着情報」からお入りください。



https://www.yokkaichi.ed.jp/~ohyachi/cms2/htdocs/?page_id=250

「興譲」は保護者のみなさまに Home & School で配信するとともに、地域のみなさまに向けて学校ホームページ「学校の様子」（上のリンク）でも発信しています。